（別紙4）　　平成　25　年度

# 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

| | | | |
|---|---|---|---|
| 事業所番号 | 4071001178 | | |
| 法人名 | 有限会社 光 | | |
| 事業所名 | グループホーム 南 薬 院 | | |
| 所在地 | 〒810-0023 福岡県福岡市中央区警固3丁目2番28号 TEL 092-752-5085 | | |
| 自己評価作成日 | 平成25年07月10日 | 評価結果確定日 | 平成25年08月22日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

| | |
|---|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php |

【評価機関概要（評価機関記入）】

| | |
|---|---|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会 |
| 所在地 | 福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5－27 TEL 093-582-0294 |
| 訪問調査日 | 平成 25年08月07日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

認知症はあっても、自分らしく生き生きと楽しい暮らしが出来る様、職員は支援を行う。自分が入ってもいい、家族を入れてもいいと思えるホームを目指す。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

福岡市の中心市街地の幹線道路から、一歩入ると、閑静な住宅地があり、地域住民が大切にしている神社の夏祭りが始まっている。代表が、生まれ育った町で、友人、知人が多く、開設時から、ホームを温かく見守ってもらい、地域から、大切にされるグループホーム「南薬院」である。代表は、常に職員に、自分や家族が入居したいと思える、グループホームになる為の、取り組みについて話し合い、利用者一人ひとりに合わせた介護サービスの提供を目指している。2週間毎の協力医療機関による往診と、職員の気付きで、利用者の健康管理は充実し、調理自慢の職員が作る愛情込めた料理を、利用者と職員が、同じテーブルで楽しく食べて、利用者の健康増進に繋げている。また、家族が、運営推進会議に沢山参加し、家族同士で話し合う交流会も、始まっている「南薬院」である。

## V．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| | 項　目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | |
|---|---|---|---|
| 58 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：25.26.27） | ○ | 1. ほぼ全ての利用者の |
| | | | 2. 利用者の2/3くらいの |
| | | | 3. 利用者の1/3くらいの |
| | | | 4. ほとんど掴んでいない |
| 59 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：20.40） | ○ | 1. 毎日ある |
| | | | 2. 数日に1回程度ある |
| | | | 3. たまにある |
| | | | 4. ほとんどない |
| 60 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：40） | | 1. ほぼ全ての利用者が |
| | | ○ | 2. 利用者の2/3くらいが |
| | | | 3. 利用者の1/3くらいが |
| | | | 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：38.39） | | 1. ほぼ全ての利用者が |
| | | ○ | 2. 利用者の2/3くらいが |
| | | | 3. 利用者の1/3くらいが |
| | | | 4. ほとんどいない |
| 62 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：51） | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が |
| | | | 2. 利用者の2/3くらいが |
| | | | 3. 利用者の1/3くらいが |
| | | | 4. ほとんどいない |
| 63 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：32.33） | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が |
| | | | 2. 利用者の2/3くらいが |
| | | | 3. 利用者の1/3くらいが |
| | | | 4. ほとんどいない |
| 64 | 利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：30） | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が |
| | | | 2. 利用者の2/3くらいが |
| | | | 3. 利用者の1/3くらいが |
| | | | 4. ほとんどいない |

| | 項　目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | |
|---|---|---|---|
| 65 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,21） | | 1. ほぼ全ての家族と |
| | | ○ | 2. 家族の2/3くらいと |
| | | | 3. 家族の1/3くらいと |
| | | | 4. ほとんどできていない |
| 66 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,22） | | 1. ほぼ毎日のように |
| | | ○ | 2. 数日に1回程度 |
| | | | 3. たまに |
| | | | 4. ほとんどない |
| 67 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4） | | 1. 大いに増えている |
| | | ○ | 2. 少しずつ増えている |
| | | | 3. あまり増えていない |
| | | | 4. 全くいない |
| 68 | 職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12） | ○ | 1. ほぼ全ての職員が |
| | | | 2. 職員の2/3くらいが |
| | | | 3. 職員の1/3くらいが |
| | | | 4. ほとんどいない |
| 69 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が |
| | | | 2. 利用者の2/3くらいが |
| | | | 3. 利用者の1/3くらいが |
| | | | 4. ほとんどいない |
| 70 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての家族等が |
| | | | 2. 家族等の2/3くらいが |
| | | | 3. 家族等の1/3くらいが |
| | | | 4. ほとんどできていない |

## 自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

| 自己 | 外部 | 項　目 | 自己評価<br>実践状況 | 外部評価<br>実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
|---|---|---|---|---|---|
| **Ⅰ.理念に基づく運営** | | | | | |
| 1 | 1 | ○理念の共有と実践<br>地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 玄関や事務室に理念を掲示し、常に目に入ることで全職員が意識している。またミーティングで、意見を出し合ったり、お互いの行動の反省を行うことで、理念を共有し実践している。 | ホーム独自の理念を、見やすい場所に掲げ、職員は、理念の意義を理解し、常に意識して介護サービスの提供に取り組んでいる。利用者が、地域の一員として、職員と家族のような信頼関係を築き、重度化しても、利用者の尊厳を守り、その人らしい暮らしの支援を目指している。また、職員が仕事の中で、迷ったり、悩んだりした時は、理念を振り返り、初心に戻って、介護サービスの実践に取り組んでいる。 | |
| 2 | 2 | ○事業所と地域とのつきあい<br>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 町内会に入会し、校区の行事や町内の懇親会等に参加している。日々の買い物や散歩で、顔見知りとあいさつする等、日常的に交流している。 | 町内会に加入し、地域の夏祭りや敬老会、ごみゼロ運動に、利用者と職員が参加し、ホームのクリスマス会や七夕、観月会に家族や地域の方が参加し、利用者の活き活きとした笑顔を見ることが出来る。また、開設10年目を迎え、代表が生まれ育った地域で開設し、近隣住民の暖かい支えで地域に溶け込み、活発な地域交流が始まっている。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献<br>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 地域の方からの相談が有れば、当ホームの経験の中から、助言することはある。 また利用者さんと行事に参加することで、認知症の方々の実際の様子や接し方等を自然と知られる事が出来る。 | | |
| 4 | 3 | ○運営推進会議を活かした取り組み<br>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 利用者、ご家族の他、地域の民生委員、町内会長、生き生きセンターの方等に参加頂き、報告や意見交換を行っている。頂いた意見を参考に、サービス向上に向けて努力している。 | 会議は2ヶ月毎に開催し、ホームの現状や取り組み、今後の課題等を報告し、参加委員からは、情報や質問、提案等が出され、充実した会議である。地域の高齢化が進み、様々な問題に直面した話し等、委員から出された意見や質問を検討し、ホーム運営に反映されるように努力している。 | |
| 5 | 4 | ○市町村との連携<br>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 運営推進会議の他、グループホーム協議会の研修を通じて、行政とのかかわりがある。また個別に電話で相談することもある。 | 行政担当窓口と、情報交換し、ホームの現状や疑問点、困難事例を報告し、連携が図られている。運営推進会議に、行政職員や、地域包括支援センター職員が出席し、ホームの実態を把握し、理解を深めるとともに、協力関係が始まっている。 | |
| 6 | 5 | ○身体拘束をしないケアの実践<br>代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 正しく理解し、身体拘束をしないケアを実践している。日中は常に解錠しており、夜間は防犯の為施錠する。玄関にセンサーを設置し、人の出入りを察知しているが、「ここが楽しい、出て行きたくない」と思って貰える雰囲気作りを心掛けている。 | 職員全員が、身体拘束が利用者に与える影響を理解し、言葉や薬についても、拘束をしないように、職員間で常に話し合い、「言葉の語尾を上げてみたら」等、注意し合い、利用者が、安心して、穏やかな暮らしが出来る体制が整っている。また、玄関の鍵は、日中は施錠せず、利用者が自由に出入り出来る環境である。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底<br>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている | 内部研修で、高齢者の人権について学び、虐待防止に努めている。利用者はお客様であり、人生の先輩であるということを全職員が認識し、認知症があっても人としての尊厳を奪うことの無い様、言葉使いや介助には気を付けている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項　目 | 自己評価<br>実践状況 | 外部評価<br>実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
|---|---|---|---|---|---|
| 8 | 6 | ○権利擁護に関する制度の理解と活用<br>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 推進会議でご家族へ周知している。詳しい説明は生き生きセンターの担当の方から、行って頂く等、協力をお願いしている。 | 現在制度活用の該当者はいないが、成年後見制度の資料やパンフレットを用意し、専門家を招聘し、勉強会を開き、職員に周知を図る予定である。契約時に制度について説明しているが、利用者や家族が、制度を必要とする時には、詳しく仕組みについて説明し、申請のための関係機関に、橋渡し出来る体制を整えている。 | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得<br>契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解･納得を図っている | 契約書、重要事項説明書、同意書等を詠み合わせながら、説明している。 | | |
| 10 | 7 | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映<br>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 運営推進会議や面会時の会話、また電話連絡やケアプラン説明時に意見をお聞きし、反映させている。 | 面会や、行事参加、運営推進会議時に、職員が家族と、話し合う機会をつくり、利用者や家族の意見や要望を聴き取っている。毎月南薬院便りと、記念写真を家族に送付し、家族の楽しみと安心に繋がり、ホームとの信頼関係に結び付いている。また、玄関にふれあい箱を設置し、苦情受付窓口を掲示し、利用者や家族が、意見や要望を気楽に言える雰囲気を提供し、なんでも言える関係づくりに取り組んでいる。 | |
| 11 | 8 | ○運営に関する職員意見の反映<br>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | ミーティングでの意見交換だけでなく、常に質問が有れば、随時聞ける状態にある。 | 毎月の職員会議の中で、カンファレンスを実施し、利用者の状態に応じた、介護の在り方や、新しい企画を提案し、利用者本位の介護サービスの実践に取り組んでいる。会議の中で、代表と意見交換し、「まず、やってみよう」と激励され、職員のやる気に繋げている。また、日常的に職員間で、問題解決に向けて取り組み、チームワークの取れた職員体制である。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備<br>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境･条件の整備に努めている | 向上心を持って職務を遂行出来る様、一人ひとりの性格や能力を踏まえてアドバイスに努めている。 | | |
| 13 | 9 | ○人権尊重<br>法人代表者及び管理者は、職員の募集･採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても,その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している | 職員の採用に当たっては、ホームの理念を理解し、利用者を軸にした支援が出来るかを重視している。　又職員同士は連携してお互いが助け合い、協力しあって能力を発揮出来る様、配慮している。 | 職員の、特技を活かしたチーム介護を採り入れ、勤務体制や希望休を柔軟にし、職員が、活き活きと働きやすい職場環境を目指している。職員の採用は、年齢や性別の制限はなく、人柄や、介護に対する考え方を優先している。また、新人研修や、スキルアップ研修を、積極的に採り入れ、資格取得のための、バックアップ体制も充実している。 | |
| 14 | １０ | ○人権教育･啓発活動<br>法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる | 人権、権利擁護の内部研修を行い、職員倫理規定に基づき全職員の意識を啓発している。機会が有れば外部研修にも参加する。 | 内部の研修会で、人権や、権利擁護に関する、勉強会を実施し、利用者の人権を尊重し、生きがいのある暮らしの支援が出来るように工夫している。ホーム理念の中に「人間としての尊厳や権利」を明示し、職員は、日々の介護の中で意識しながら、実践に向けて取り組み、職員一人ひとりの啓発活動に繋げている。 | |

| 自己 | 外部 | 項　目 | 自己評価<br>実践状況 | 外部評価<br>実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
|---|---|---|---|---|---|
| 15 | | ○職員を育てる取り組み<br>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 外部研修の案内を提示、本人の意思で参加を募る。毎月1度のミーティング時に、テーマを決めて内部研修を行う。研修後は書面での報告や意見交換を行う。 先輩職員によるＯＪＴを実施している。また職員の各々の経験や能力に応じた役割を与えることで、責任感やスキルアップが出来る様、配慮している。 | | |
| 16 | | ○同業者との交流を通じた向上<br>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 他のホームを見学に行ったり、他のホームの職員が来ることもある。他のホームの利用者様や職員と交流することで、自分のホームの良いところ、悪いところが客観的に見え、サービスの質の向上の参考にしている。 | | |
| **Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援** | | | | | |
| 17 | | ○初期に築く本人との信頼関係<br>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 家族からの詳しい情報提供と、入居前の見学や体験入居で、本人の不安、要望等を把握し、安心して頂ける関係を作る。職員の担当者を決める事で、より一層の親身な関係づくりに努めている。 | | |
| 18 | | ○初期に築く家族等との信頼関係<br>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 家族の不安や要望、ご本人の過去歴等を知ることで、信頼関係を築く様努めている。 | | |
| 19 | | ○初期対応の見極めと支援<br>サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 努めている。 | | |
| 20 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係<br>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 職員にとって利用者様は家族、自分の祖父母と暮らしている、という関係を目指している。常に本人の意思を尊重し、無理強いではなく自分の出来る事はして頂き、職員は常に見守り、支えて共に生活している。 | | |
| 21 | | ○本人を共に支えあう家族との関係<br>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 家族の面会、家族との外出や食事を奨励している。ホームでの行事にも参加のお願いをし、一緒に楽しんで頂いている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項　目 | 自己評価<br>実践状況 | 外部評価<br>実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
|---|---|---|---|---|---|
| 22 | １１ | ○馴染みの人や場との関係継続の支援<br>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 本人の不穏に繋がる場合もあるので、見極めが難しいが、出来るだけ支援する様、努めている。 | 年々、利用者の重度化が進み、友人、知人の面会も少なくなっているが、職員は利用者に寄り添い、信頼関係を築き、利用者の本音の部分を聴き取り、馴染みの人や、訪ねていきたい場所に、利用者の状態を見極めて、同伴し、利用者の活き活きとした笑顔が見られ、職員の苦労が報われる瞬間でもある。 | |
| 23 | | ○利用者同士の関係の支援<br>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 気が合う人同士、互いの居室を訪問し、一緒にTVを見たり、職員抜きで、日々井戸端会議が行われている。又利用者同士で支え合う状況も、日常的に見られる。 | | |
| 24 | | ○関係を断ち切らない取組み<br>サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 退居後の様子をご家族に伺ったり、他施設や病院へお見舞いをしている。 | | |
| **Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント** | | | | | |
| 25 | １２ | ○思いや意向の把握<br>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 日々の生活の中で、ふと漏らされる本人の気持ちや本音を汲み取り、職員同士が共有し、意向に沿うよう検討実施している。 | 職員は、アセスメントや、会話の中から、利用者の思いや意向を把握し、出来るだけ実現に向けて、努力をしている。また、利用者の意向表出が困難な場合は、古いアルバムや、昔の話しをしながら、利用者に少しずつ、思い出してもらったり、家族と相談する等して、少しでも利用者の思いや意向に、近づくように努力している。 | |
| 26 | | ○これまでの暮らしの把握<br>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 入居時の家族からの情報提供や、本人からの聞き取り、会話から把握している。 | | |
| 27 | | ○暮らしの現状の把握<br>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 一人ひとりの状態を日々観察し、現状の把握に努めている。月1度のミーティングでは、全員でカンファを行い、問題点や今後の対策等を行っている。 | | |
| 28 | １３ | ○チームでつくる介護計画とモニタリング<br>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 利用者、家族の思いや意向を聞き取り、担当者と介護支援専門員が介護計画書を作成し、担当者会議に於いて、他の職員と協議し作成している。 | 利用者や家族の、意見や要望、困っていること等を聴き取り、担当者会議で協議し、介護計画を定期的に作成している。また、プラン実施チェック表を活用し、利用者の残存能力を活かして、出来ることはしていただくという方針を、職員間で共有し、利用者一人ひとりの身体機能維持に努めている。利用者の状態変化に合わせ、家族と連絡を取りながら、主治医と話し合い、その都度介護計画の見直しを図っている。 | |

| 自己 | 外部 | 項　目 | 自己評価<br>実践状況 | 外部評価<br>実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
|---|---|---|---|---|---|
| 29 | | ○個別の記録と実践への反映<br>日々の様子やケアの実践･結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | ケア記録、熱計表、排泄チェック表、水分チェック表、プラン実施チェック表等を個別に記録している。職員同士も常に申し送りや声掛けで情報を共有し、実践や見直しに活用している。 | | |
| 30 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化<br>本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 書面上のケアのみではなく、季節に応じた楽しみや、其の時々の利用者の状態に合わせたサービスに取り組んでいる。 | | |
| 31 | | ○地域資源との協働<br>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 地域の夏祭りや、親睦会に参加し、地域の方々と交流している。　また町内の方から、お花を頂いたり、手作りの梅味噌を差し入れて頂く等、地域資源を活用している。 | | |
| 32 | １４ | ○かかりつけ医の受診支援<br>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 契約時に家族と、それまでのかかりつけ医の継続に関して相談し、同意が得られれば、ホームの訪問医に変更する。ホームの訪問医からは常に適切な医療を受けられるよう、支援している。 | 利用者や家族の希望を優先し、かかりつけ医の受診支援をしている。定期的に往診してもらえる協力医療機関と訪問歯科を活用し、利用者が安心して、医療を受診できる体制を整えている。また、介護職員の的確な判断で、利用者の健康状態を把握し、早期対応で利用者の、健康管理体制は充実している。 | |
| 33 | | ○看護職との協働<br>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 訪問医と同行してくる看護師に、各担当者からの日々の状態の変化や気付きを報告している。 | | |
| 34 | | ○入退院時の医療機関との協働<br>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 利用者が入院になった場合は、病院関係者との情報交換や相談に努めている。入院が長くなると認知症が進行するので、医療に支障がない時点での、早期退院をお願いしている。 | | |
| 35 | １５ | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援<br>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人･家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 早い時期に医師との相談、家族への説明を行っている。 | 契約時に、利用者や家族に、終末期の支援体制について説明し、了承を得ている。利用者の重度化が進む中で、家族と主治医が、話し合う機会を作り、今後の介護の方針を確認し、職員全員が方針を共有し、利用者が、一日でも長く、ホームの中で穏やかに暮らせる支援体制を確立している。 | |

| 自己 | 外部 | 項　目 | 自己評価<br>実践状況 | 外部評価<br>実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
|---|---|---|---|---|---|
| 36 | | ○急変や事故発生時の備え<br>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 講習会での訓練や、ミーティング時に意識付けを行い、全職員が、常に不測の事態に対応出来る様にしている。 | | |
| 37 | １６ | ○災害対策<br>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 定期的に防火災害対策訓練を行っている。長崎の火災を受けて、当ホームもスプリンクラーの設置を検討し、設置予定。 推進会議に於いて、避難場所としている、典礼会館の責任者に出席頂き、了承と協力をお願いした。 | 消防署の協力と参加を得て、定期的に避難訓練を実施し、2階の利用者の救助方法を、消防署と確認し、夜間の非常災害時に、夜勤者が一人で、利用者全員を、安全な避難場所(典礼会館駐車場)に避難誘導できる体制を整えている。またスプリンクラーの設置を近日中に予定し、非常食や飲料水の備蓄も用意している。 | |
| **Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援** | | | | | |
| 38 | １７ | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保<br>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 人生の先輩である事を常に意識した言葉掛け、対応をしている。その時々の状況や、一人ひとりに合わせた言葉を選び、傷つけない様、配慮している。 | 職員は、利用者を人生の先輩として尊敬し、優しい声掛けや、さりげない対応で、利用者のプライドや羞恥心に配慮し、職員の何気ない言葉が、利用者を傷つけないように職員間で話し合い、利用者が穏やかに暮らせる支援に繋げている。また、利用者の個人情報の保管や、守秘義務について、職員全員が周知、徹底している。 | |
| 39 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援<br>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 自分で決められる様、選択肢のある言葉掛けを工夫している。何がしたいのか、どうしたいのか、表情や動きの中から察知し、意向を汲みとっていく。 | | |
| 40 | | ○日々のその人らしい暮らし<br>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 一人ひとりのその日の状態や表情から、其の人のペースに合わせて、支援している。 | | |
| 41 | | ○身だしなみやおしゃれの支援<br>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 家族の了解のうえで髪を結ったり、染めたり、とその人らしい身だしなみが出来る様、支援している。 | | |
| 42 | １８ | ○食事を楽しむことのできる支援<br>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている | 一人ひとりの好みを考えながら、メニューを決める。時には利用者に食べたいものを聞いて、決める事もある。また利用者が出来る範囲で、野菜の下ごしらえや盛り付け、片づけ等を手伝って頂く。 | 利用者一人ひとりの嗜好を聴き取り、メニューを考えて、利用者の残存能力を活かして、食事作りを手伝ってもらい、新鮮な野菜や果物を使って調理し、利用者と職員が同じテーブルで、「今日の料理は、美味しいね」等、楽しい会話の中で、和気あいあいとした、食事風景である。また、気候の良い日に、庭にテーブルを出して、気分を変えて、食事をしている。 | |

| 自己 | 外部 | 項　目 | 自己評価<br>実践状況 | 外部評価<br>実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
|---|---|---|---|---|---|
| 43 | | ○栄養摂取や水分確保の支援<br>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 食事量、水分量を毎食記録している。1日の水分量が目標を達成できない時や、お茶が嫌いな方には、ココアやコーヒー、牛乳等好みの飲み物を提供する。 | | |
| 44 | | ○口腔内の清潔保持<br>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食後、洗面所に誘導し行っている。家族の希望が有れば、週に1度訪問歯科医による航空ケアを実施している。 | | |
| 45 | １９ | ○排泄の自立支援<br>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 排泄チェック表によりパターンを掴み、尿意、便意の無い方も、失禁で不快な思いをされない様、トイレ誘導を行っている。 | 利用者の重度化が進む中で、職員は利用者の習慣や、排泄パターンを見直し、早めの声掛けや誘導で、失敗の少ない、トイレでの排泄の支援をしている。職員は、一日に何回もトイレを清掃し、快適な環境の中で利用者の自立に向けた排泄の支援に取り組んでいる。 | |
| 46 | | ○便秘の予防と対応<br>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 排便チェックを怠らず、其の人の状態に合わせ、整腸剤や便秘薬を使用するが、ヨーグルトや食物繊維を多く含んだ食材を使う等の工夫もしている。　腹部マッサージも取り入れている。 | | |
| 47 | ２０ | ○入浴を楽しむことができる支援<br>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 今の利用者は入浴拒否の方が多いが、お風呂は毎日沸かし、少なくとも1日置きに入って頂いている。<br>便汚染や、失禁等に応じて、声掛けを工夫し、清潔保持に努めている。 | 入浴は、利用者の健康状態に配慮し、いつでも入れる環境である。通常は一日おきに入ってもらい、楽しい入浴になるように支援している。また、入浴を拒否する利用者が増えてきたので、職員は、利用者のその日の状態を考慮しながら、絶妙のタイミングで声掛けし、利用者の気持ちの良い、入浴の支援に繋げている。 | |
| 48 | | ○安眠や休息の支援<br>一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 居室の換気や室内温度に気を配り、心地よく休まれる様配慮している。就寝前に不安な感情にならない様、気持ちよく、穏やかに眠りに就ける様、会話等を工夫している。 | | |
| 49 | | ○服薬支援<br>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 薬の目的、副作用、用法、用量については理解している。新しい薬が処方されたり、変わったりした時は、様子観察を行い、症状悪化の場合は、速やかに医師に連絡している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項　目 | 自己評価<br>実践状況 | 外部評価<br>実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
|---|---|---|---|---|---|
| 50 | | ○役割、楽しみごとの支援<br>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 一人ひとりの趣味や嗜好に合わせて、楽しんで頂ける様、努めている。レクレーションは無理強いはせず、参加して頂けるような声掛けを工夫している。 | | |
| 51 | ２１ | ○日常的な外出支援<br>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 無理強いせず、散歩や買い物の声掛けを行っている。たまには西鉄バスで、好物のお饅頭を買いに行くこともある。 | 気候の良い日に、利用者と職員は、交通量の少ない道路を利用し、近くの公園や、神社までの散歩が日課となっている。大宰府天満宮に出かけたり、買い物やドライブを楽しみ、家族の協力を得て、外食や旅行、自宅への外泊等、利用者の気分転換と、生きがいに繋がる外出の支援に取り組んでいる。 | |
| 52 | | ○お金の所持や使うことの支援<br>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | バスで出掛ける時は、本人に運賃箱にお金を入れて貰う。新聞の集金は、財布から自分で払ってもらう等の支援を行っている。 | | |
| 53 | | ○電話や手紙の支援<br>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 希望が有れば、職員が付き添い提供している。 | | |
| 54 | ２２ | ○居心地のよい共用空間づくり<br>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 季節感のある飾りや、花を生けるなどして、季節を感じて頂く。また清潔に気を配り、常に掃除を怠らず、心地よい生活環境を整える様、努めている。 | 社宅を改築し、家庭的な雰囲気のあるリビングルームは、利用者が一日の大半を過ごす場所として、利用者一人ひとりが落ち着いて、穏やかに過ごせる環境を整えている。光や音、温湿度に気を配り、生花や、季節毎の飾りつけで、利用者が居心地よく暮らせる環境を整えている。 | |
| 55 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり<br>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 気の合った方同士、訪室して談笑したり、2階の長椅子で井戸端会議をされたりと、職員の目が届かない所で、楽しむ事も出来る様工夫している。 | | |
| 56 | ２３ | ○居心地よく過ごせる居室の配慮<br>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 使い慣れた箪笥やテーブルを持ってきて頂いて、ぬいぐるみを飾ったり、若い時の写真を飾ったりと、一人ひとりの個性が出ている。 | 居室は、家族の協力を得て、利用者の大切にしている馴染みの箪笥や、テーブル、椅子、仏壇やぬいぐるみ、家族の写真等持ち込んでもらい、利用者が自宅と違和感のない暮らしが出来る環境に取り組んでいる。各居室は、清掃がいきわたり、清潔感のある室内である。 | |
| 57 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり<br>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | トイレに張り紙をしたり、居室に名前を張ったりと、出来る限り、工夫している。 | | |